

チャレンジ精神に満ちた パッケージソリューション・プロバイダー

2017年12月期第3四半期決算説明資料



竹本容器株式会社

(東証1部 4248)

2017年11月10日

資料構成

1. 2017年12月期第3 四半期業績概要

2. 参考資料



2017年12月期第3四半期業績概要

2017年12月期第3四半期連結決算ハイライト

- ・スタンダードボトル、カスタムボトルとも需要が伸び売上高は続伸
- ・昨年完成の日本国内の二工場と研究開発用の資産に係る減価償却費負担増加し、営業利益・経常利益は前期比減少

	2016年1-9月 ¥16.48/RMB ¥108.57/USD	2017年1-9月 ¥16.47/RMB ¥111.89/USD	前年同期比		2017年計画比	
			増減	増減率	増減	増減率
売上高	百万円 9,686	百万円 10,616	百万円 + 930	+9.6%	百万円 + 660	+6.6%
営業利益	1,077	1,090	+ 13	+1.2%	+ 96	+9.7%
売上高営業利益率	11.1%	10.3%	△0.8 P	—	+0.3P	—
経常利益	1,088	1,098	+ 10	+1.0%	+ 90	+8.9%
四半期純利益	720	751	+ 31	+4.4%	+ 55	+8.0%
減価償却費	574	684				
設備投資額	1,397	973				
(うち 金型)	316	263				
EBITDA	1,651	1,775				

2017年12月期第3四半期業績概要

地域別グループ企業業績

日本

百万円

	2016第3四半期	2017第3四半期	前年同期比		計画比	
			増減	増減率	増減	増減率
売上高	7,650	8,293	+642	+8.4%	+418	+5.3%
営業利益	788	853	+64	+8.2%	+106	+14.2%

売上変動要因

- ① 顧客企業の業績好調による、化粧品向けを中心とした需要の増加
- ② 開発提案型営業によりスタンダードボトル、カスタムボトルとも売上増加

利益変動要因

- ① 売上高は前期比8.4%増となるも、売上総利益率の低い他社製品売上増加割合高く、売上総利益率は微減
- ② 昨年稼働の結城事業所印刷棟、岡山事業所の減価償却費負担増
- ③ プラスチック原材料価格は上昇傾向にあり、前年同期比で負担増加要因に（国内は6百万円負担増）

2017年12月期第3四半期業績概要

地域別グループ企業業績

中国 ※ () 内はRMBベース

百万円
(百万円)

	2016第3四半期 ¥16.48/RMB	2017第3四半期 ¥16.47/RMB	前年同期比		計画比	
			増減	増減率	増減	増減率
売上高	2,035 (123)	2,265 (137)	+230 (+14)	+11.3% +11.4%	+174 (+ 2)	+ 8.3% + 2.0%
営業利益	278 (16)	240 (14)	△37 (△2)	△13.4% △13.4%	△30 (△2)	△11.3% △16.6%

売上変動要因

- ① 開発提案型営業により人民元ベースでスタンダードボトル、カスタムボトルとも売上増加
- ② 為替変動の影響は前年同期比で円換算額微減 (▲1百万円)、計画比で円換算額増加 (+133百万円)

利益変動要因

- ① 売上高増加したものの、前期末比の在庫減少の影響があり、売上総利益額減少、粗利率も低下
- ② プラスチック原材料価格は前年同期比上昇 (17百万円負担増)
- ③ 為替変動の影響は前年同期比で円換算額減少 (▲0百万円)、計画比で円換算額増加 (+14百万円)

2017年12月期第3四半期業績概要

区分別販売実績

販売先の主要事業内容ごとの販売実績

- ・スタンダードボトルの品揃え強化と開発提案型営業の展開により、全区分で売上は増加
- ・卸、その他は中国での商社向け販売（主に化粧品）の増加の影響大

区分	2016第3四半期		2017第3四半期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	比率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
化粧・美容	6,002	62.0	6,411	60.4	+409	+6.8
日用・雑貨	465	4.8	506	4.8	+41	+8.8
食品・健康食品	899	9.3	908	8.6	+9	+1.1
化学・医薬	449	4.6	510	4.8	+61	+13.6
卸、その他	1,869	19.3	2,278	21.5	+409	+21.9
合計	9,686	100.0	10,616	100.0	+930	+9.6

※上記区分は販売先の主要事業内容により分類したものであり、販売先における実際の用途と上記区分名称は異なる場合があります。

2017年12月期第3四半期業績概要

区分別販売実績

製商品の内訳ごとの販売実績

- ・日本国内で他社製品を使用した売上が継続して増加
- ・開発提案型営業の推進により、日本、中国でカスタムボトル売上増加

区分	2016第3四半期		2017第3四半期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	比率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
自社製品 (スタンダードボトル)	7,154	73.9	7,582	71.4	+427	+6.0
顧客金型製品 (カスタムボトル)	1,031	10.6	1,185	11.3	+153	+14.9
他社製品	1,253	12.9	1,606	15.1	+353	+28.2
材料その他	247	2.6	242	2.3	▲4	▲1.9
合計	9,686	100.0	10,616	100.0	+930	+9.6

※上記区分は以下により分類しています

自社製品：当社所有の金型を用いて生産した製品（スタンダードボトル）

顧客金型製品：顧客が金型費用を負担している製品（カスタムボトル）

他社製品：顧客の要望等により他社から仕入れた品物

材料その他：協力メーカーへの原材料を販売した物等

2017年12月期第3四半期業績概要

金型（新製品）開発状況

当社グループでは、日本と中国の生産拠点用に金型の開発を行っており、日本では外部メーカーに金型製作を発注していますが、中国子会社では自社による金型製作も行っています。現在、日本と中国の金型開発部門では人員増加や金型設計標準化を進めており、より機能性の高い金型開発にも取り組んでいます。

また、来年初めに工場が完成予定のインド向けの金型開発にもすでに着手しております。

2017年第3四半期の金型製作の進捗状況（新規製品の増加の状況）は下表のとおりです。

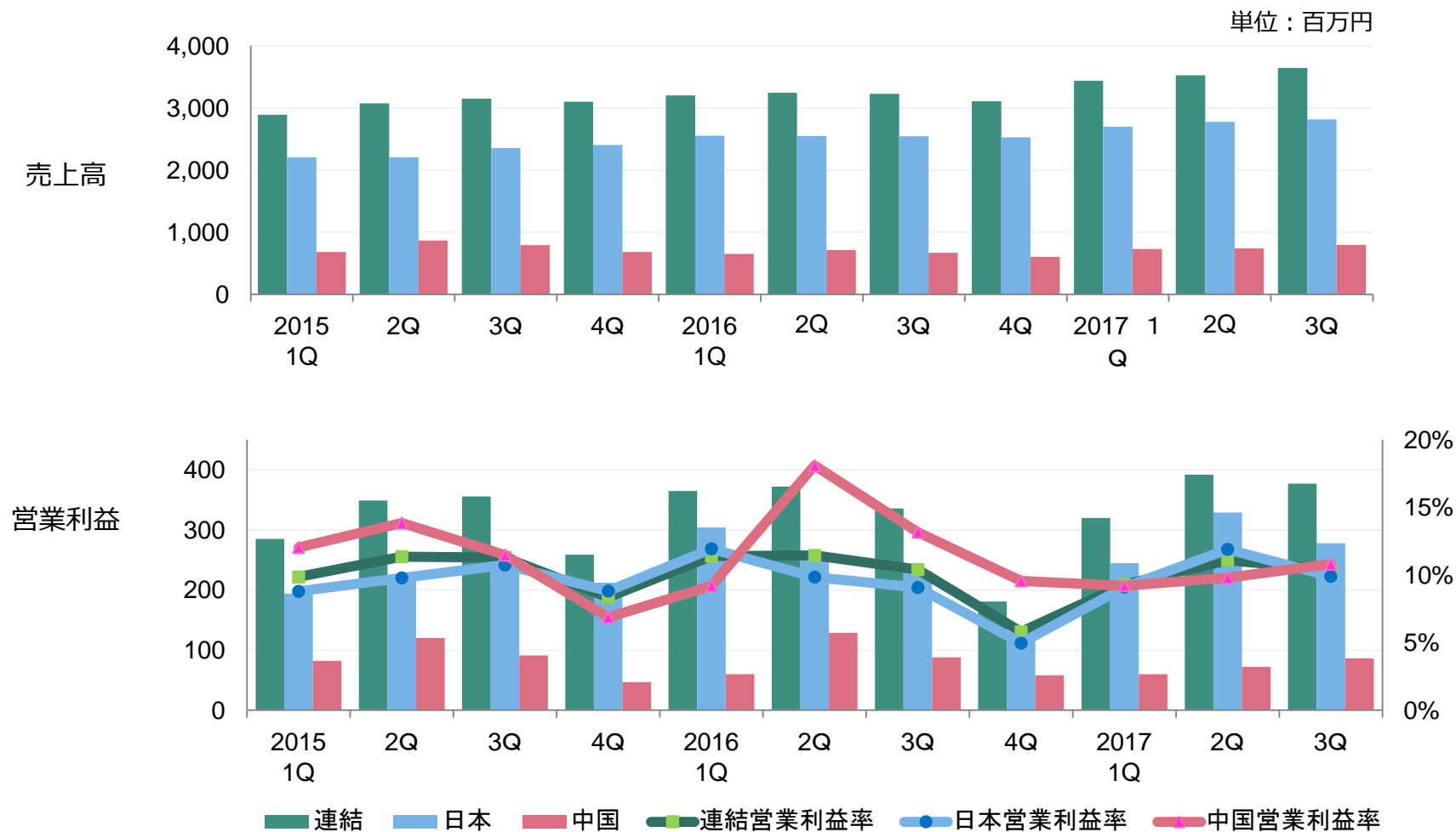
金型数			
	2017年第3四半期 完成金型数	製作中	合計
日本	108 (27)	60 (6)	168 (33)
中国	92 (17)	103 (7)	195 (24)
合計	200 (44)	163 (13)	363 (57)

※表の（ ）は内数でカスタムボトル用金型

2017年9月末時点での自社金型数は**3,203型**となっている。

2017年12月期第3四半期業績概要

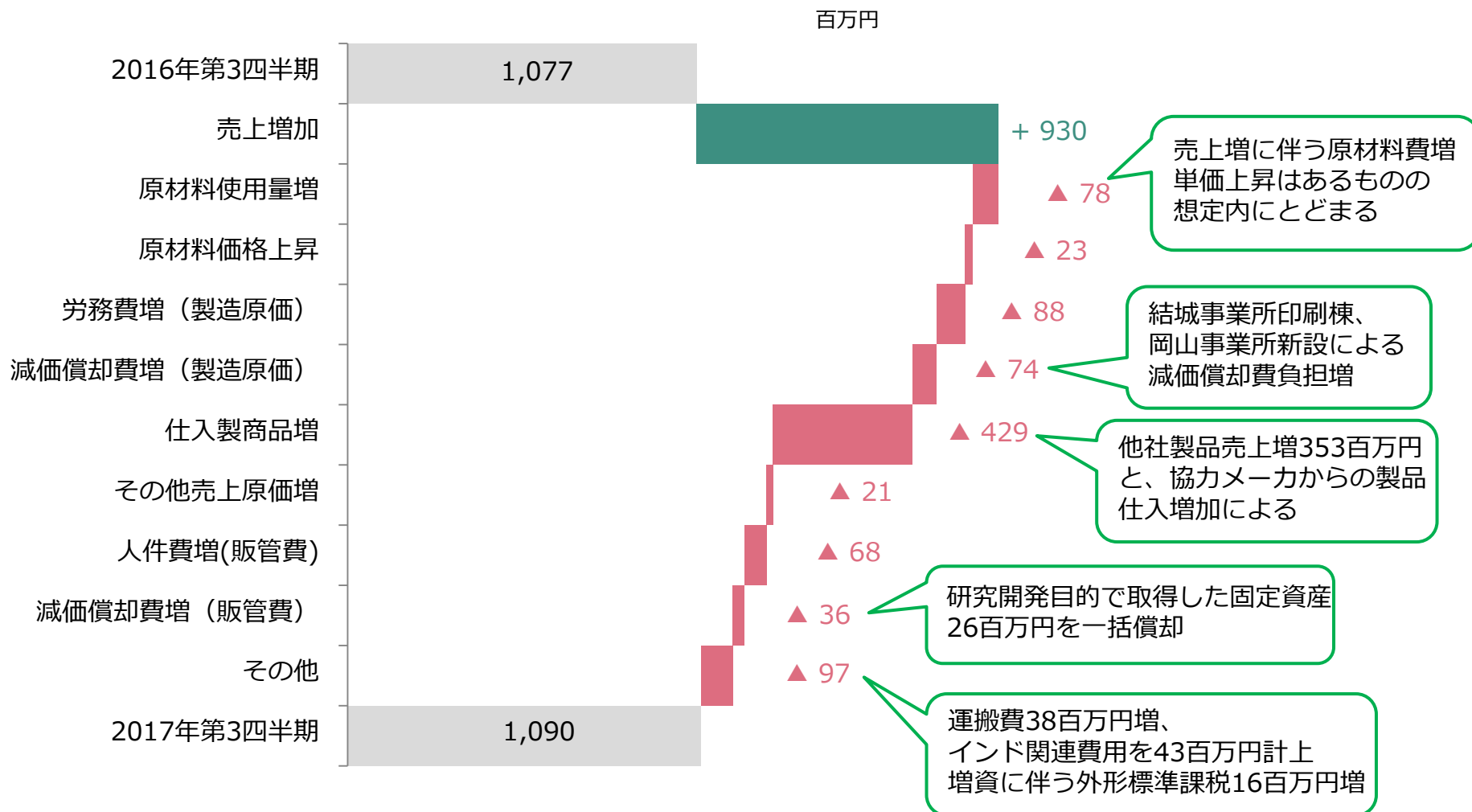
2015年以降の四半期業績の推移



※日本、中国はそれぞれ当該地域のグループ企業業績を示している

2017年12月期第3四半期業績概要

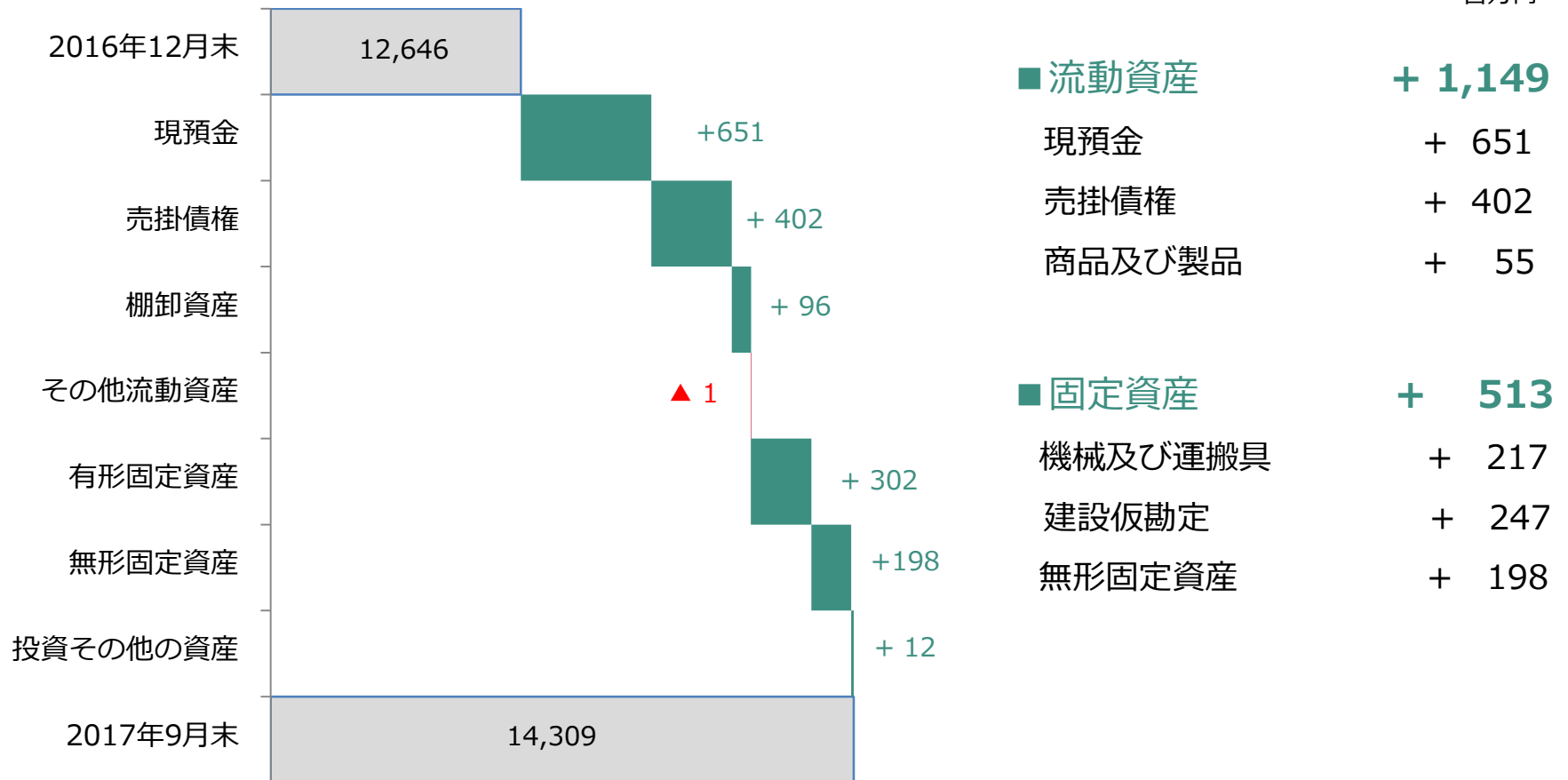
2017年第3四半期 営業利益の変動分析



2017年12月期第3四半期業績概要

2017年12月期第3四半期 連結貸借対照表 資産の部

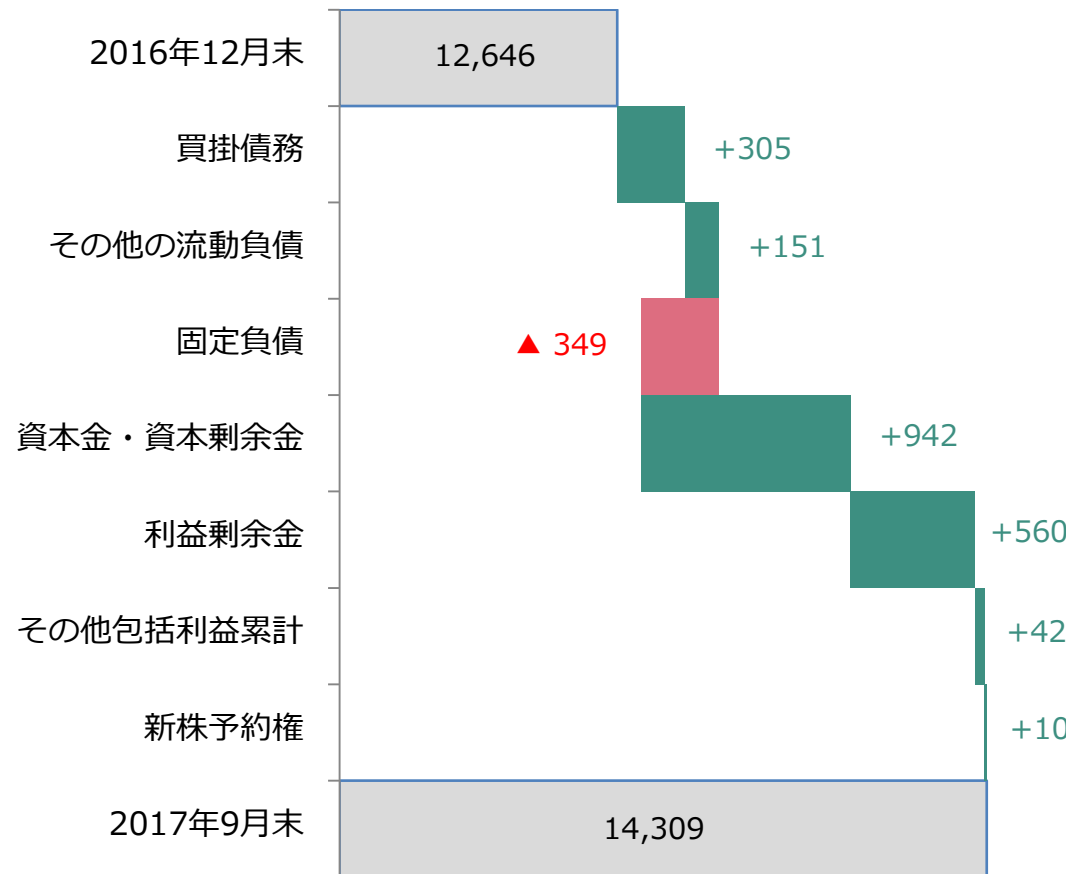
百万円



2017年12月期第3四半期業績概要

2017年12月期第3四半期 連結貸借対照表 負債・純資産の部

百万円



流動負債	+ 457
買掛債務	+ 305
未払法人税等	+ 17
1年内返済長期借入金	▲ 64
設備支払手形	▲ 88
固定負債	▲ 349
長期借入金	▲ 362
純資産	+ 1,555
資本金	+ 471
資本剰余金	+ 471
利益剰余金 (四半期純利益分)	+ 751
(配当金支払)	▲ 191
為替換算調整額	+ 40

参考資料

会社概要

会社名	竹本容器株式会社
事業内容	プラスチック製容器等の製造・販売
設立年月日	1953年(昭和28年)5月19日
代表者名	代表取締役社長 竹本 笑子
本社所在地	東京都台東区松が谷二丁目21-5
資本金	8億314万円
発行済株式数	6,264,200株 (1単元の株式数 100株)
株主数	5,246名(1単元以上保有)
グループ従業員数	926名

※ 数字はいずれも2017年6月末時点

「挑戦」なくして進化なし